

## ②B-23 洋裁用人台の幾何学的解析について

日本女子大 ○樋口ゆき子  
西川美和子

1. 洋裁用人台には種々の形態がある。それは一見して分るとも言えるが量的に差違を表現することも裁断の基礎として、将来重要視されてくると思われる。

本研究は、幾何学的表現法を研究したものであるが、直接人体についても測定が可能であれば応用できるような表現を研究した。

2. 幾何学的表現をつぎの如く分類した。

a デカルト座標上に人台をおき、それぞれ  $x$ ,  $y$ ,  $z$  平面に平行な平面で人台を切断したときの裁面を等高線図によって表現する。それには人台を直接切断することなく、体型表面に測定機を接触させて高低を選別する検出装置を用いる方法を採用した。

b つぎに人台表面に4コの同一歯車を組合せた検出装置を摺動させて、デカルト座標上の図形を参照しながら、微分幾何学における放物点線および測地線を求める。

3. D型、B型およびI型人台を例として、各種の等高線図を求めてその形状の差違を表現した。

等高線図から人台の表面積を概算して3種の人台を比較した。

放物点線、測地線から体型の分割が試みられた。

これらの特殊な曲線は、将来、その表面を被覆する布の裁断方法との関係を見出すものであるから結果の検討は、以後の研究をまたねばならなかった。